

ポイント

◆◆特集◆◆

★次世代ITS（高度道路交通システム）の展開★
（国土交通省 道路局 道路交通管理課 ITS推進室）

2004年8月に「ITS、セカンドステージへ」がスマートウェイ推進協議会により提言されて以来、産官学が一体となり、新しい路車協調システムの研究開発・実証実験を経て、2011年3月にITSスポットサービスの全国展開が開始された。本稿ではこの情報を中心として、ITSに関する最新の動向について報告する。

◆◆訴訟事例紹介◆◆

★走行中の普通乗用車が停止車両を避けるためセンターラインを越えたところ、路面の陥没部分に脱輪し損傷を受けたとして、道路の管理瑕疵が争われた事例★
＜平成21年12月8日 姫路簡易裁判所判決＞
（国土交通省 道路局 道路交通管理課）

【事案の概要】

普通乗用車が走行中、左側に停まっていた車両を避けようとしてセンターラインを越えたところ、路面が陥没（深さ5センチメートル、横約50センチメートル、縦約30センチメートル）しており、リヤタイヤが陥没部分に脱輪したことによって車両に損傷を受けた。

陥没部分は、舗装が破損し、陥没しており、道路通行上非常に危険な状態にあり、本件事故は、その陥没部分に脱輪した結果起こったものであるとして車両修理費、弁護士費用等を請求。

【判決要旨（一部認容）】

陥没部分にあった舗装材に当たり、同時に陥没部分に脱輪した事実から判断すると、深さが約5センチメートルであったとしても、車両の損傷が生じることは充分あり得ると認められることができる。

◆◆TOPICS◆◆

★道路占用許可の電子申請（直轄国道）について★
（国土交通省 道路局 路政課 道路利用調整室）

国土交通省では、直轄国道における占用許可申請手続に関して、公益物件を対象とする「道路占用許可電子申請システム」を構築し、平成13年2月より順次各地方整備局等管内ごとに運用を開始してきたところですが、同システムの更改版として、新たに「道路占用システム」を開発し、平成23年1月より各地方整備局等ごとに順次運用を開始しております。本稿では、「道路占用システム」の概要についてご紹介します。

★「道路ふれあい月間」における道路愛護団体等の国土交通大臣表彰について★ (国土交通省 道路局 総務課)

国土交通省では「道路ふれあい月間」(8月1日～8月31日)に当たり、多年にわたり道路愛護思想の普及等に功績のあった民間の団体または個人に対して、感謝状を贈り表彰することとしています。

本稿では、平成23年度に表彰された87団体89件、個人10名10件について紹介します。

◇◆地域における道路行政に関する取組み事例◆◇

★四国地方整備局道路部における技術力向上プログラムの取組みについて★ ～現場見学会の月1回開催を目標に～ (国土交通省 四国地方整備局 道路部 道路工事課)

四国地方整備局道路部では、若手職員の技術力の向上のため、平成22年度より「月1回開催」を目標に現場見学会を開催しています。現場見学会の年間計画に基づき案内を行うことで、若手職員が参加しやすい環境を整えるとともに、現場見学会に合わせて「座学」を開催したり、体験型の見学会にするなど現場見学会での効果アップを図る工夫を行っています。

.....

★瀬戸内サイクリングロードの整備★ (広島県 土木局 道路整備課)

広島県では、瀬戸内海地域のブランド力を高めるなどによって、豊かな地域社会の実現を目指すため、「瀬戸内 海の道」構想を進めています。

この取組みの一つとして、日本でも有数のサイクリングコースであるしまなみ海道等を、他県の観光資源とも組み合わせ、瀬戸内海を一大サイクリングエリアに発展させるため、「瀬戸内サイクリングロード」事業を実施しています。

.....

★観光地「世界文化遺産・宮島」の玄関口の渋滞対策★ ～既存インフラを活用した社会実験の取組み～ (広島県 廿日市市 建設部 監理課)

観光期の宮島では、幹線道路である国道2号で大渋滞が発生するため、国土交通省と連携を図り、渋滞緩和を目指す社会実験を行うこととしました。

観光地としてのイメージダウンにも繋がる為、速やかに実施できる既存インフラを活用したソフト対策で、どの程度渋滞が緩和されるか、検証を行いましたので本稿にてご紹介します。

◆◆編集後記◆◆

日本人女性は、しばしば、可憐でありながら芯が強い“なでしこ”という淡紅色の花を咲かせる花にみたてられ、大和撫子（やまとなでしこ）と美称されることがあります。

早朝にも関わらず、テレビ中継をご覧になられた方も多いと思いますが、FIFA 女子ワールドカップ_ドイツ 2011 において、サッカー日本女子代表“なでしこジャパン”が優勝しました。

準々決勝で開催国ドイツを延長戦の激闘の末に下し、準決勝ではスウェーデンを下し、決勝進出を決めた“なでしこ”。サッカーに造詣が深くない私でも、テレビの前で大興奮でした。

そして迎えた7月17日の決勝戦。対戦相手は過去24度の対戦（1986年～）で1度も勝った事のないアメリカ。欧米諸国の選手に比べると、日本人はやはり小柄で、アメリカの選手との平均身長差はなんと10cmもあったそうです。ゲームが始まると、アメリカに先制点を許すも、その後の繊細なパスワークを駆使した果敢な攻めで1点を取り返す。結局、両チームともに前半で得点した1対1のまま延長戦へ。延長戦では、再びアメリカに先制されるも、試合終了時間ギリギリのところを取り返し、2対2で前後半戦が終了し、PK戦までもつれ込みました。そして、全員が笑顔で円陣を組んで迎えたPK戦を日本が制し(3-1)、優勝を勝ち取りました。常に押され気味の試合が展開されていく中、苦しい場面もありましたが、心からサッカーを楽しみ、諦めずに走り続ける姿がとても印象的でした。

小柄な身体ながらも、豪然たる諸外国の選手に屈することなく果敢に立ち向かうその姿は、まさに、可憐に咲く“なでしこ”のようでした。

日本女子サッカーは、プロ化されておらず、今回の日本女子代表“なでしこジャパン”の中でもプロ契約の選手は少数で、別の仕事をしながら、練習に励んでいる選手もいます。このような充分とはいえない環境の下で、サッカーを愛し、直向に練習を重ね、人並みならぬ努力をしてきたことを考えると、“なでしこ”の花のような芯の強さを感じます。

大会期間中には、ミーティングの中で東日本大震災の映像を見て、「自分たちが出来ることを一生懸命にやろう」と全員が気持ちを高ぶらせたそうです。

震災の傷痕が大きく残る日本。日本中に諦めないことの大切さ、物事に打ち込む美しさや力強さを教えてくれた“なでしこジャパン”。感動と勇気をありがとう。(U)